17人の思いがつまった成人祭

「高校の先輩や学校の先生の勧めもあり、成人祭の実行委員に申し込みました。初めての会議のときは、少し緊張しましたが、すぐにうち解けて、委員全員が記憶に残る成人祭にしたいという思いで、意見を出し合ってきました。成人祭当日は、全員が運営スタッフとして参加します。多くの人の楽しむ顔を見たいですね」と笑顔で話す竹中さん。

今年度の実行委員会は、新成人となる4人に加え、市内の高校生やまちづくり団体の方など、計17人で構成されています。立場が違うそれぞれの視点から、人生で一度きりの成人祭を楽しい思い出にしようと9月から、会議を重ねてきました。

立候補で実行委員長になったという竹中さんは、「主に案内状やしおりの作成に携わりました。特にしおりは成人祭が終わったあとにも形に残る物。間に合うか心配でしたが、参加者に喜んでもらえるよう細かいところまで気を使いました。今回は、会場で登別閻魔（えんま）やきそばといったご当地グルメを提供します。みんなで考えたアトラクションはもちろん、登別を離れていた友人たちと一緒にご当地グルメも楽しんでもらいたいですね」と今年度の成人祭の意気込みを語ってくれました。

▲より良い成人祭にしようと、それぞれの意見を出し合う実行委員

実行委員会の経験を糧に

自身も新成人である竹中さんは、成人祭に参加者としてだけではなく、実行委員会として携わったことで、大きなイベントをつくりあげる難しさと楽しさを知ったと言います。

現在、人に代わる作業用ロボットを開発するという目標に向かって、大学への編入を目指している竹中さんは、「チームでつくりあげることが多いロボット開発に、今回の経験を生かしたい」という決意とともに、新成人としての第一歩を踏み出します。

平成９年、登別市生まれ。20歳。
平成30年登別市成人祭実行委員会実行委員長。北海道登別青嶺高等学校を卒業後、日本工学院北海道専門学校の情報処理科に入学。室蘭工業大学への編入学を目指し、勉学に励む。

きらり

KIRARI

竹中（たけなか） 健也（けんや）さん（幌別町）

１月７日㈰、市民会館で『平成30年登別市成人祭』（市教育委員会・同実行委員会主催）が行われます。

今年、20歳となった新成人にとって晴れの舞台となる登別市の成人祭は、毎年、新成人などによる実行委員会が企画・運営に携わっています。今号では、実行委員長の竹中健也さんに、成人祭に向けた抱負を聞きました。

一人ひとりが描く未来への門出